

## 改善計画書

施策番号	担当部	担当課	職名	氏名	電話番号(直通)	
16110	市民活力推進部	文化国際課	課長	瀬戸 茂美	042-769-8202	
施策名	豊かな市民文化の創造					
施策の目的	<p>市民の自主的な文化活動への参加や発表の機会の充実に努めるなど、多彩な市民文化活動を支援するとともに、文化を担う人材の育成や、企業の文化活動を促進します。また、市民文化財団との連携を強め、質の高い文化芸術の鑑賞機会の充実に努め、市民の文化芸術への理解を深めます。</p> <p>市民文化祭や市民ギャラリー等での文化活動の発表の場の提供や文化協会等の自主運営支援を進めるとともに、市民文化財団の管理する文化ホールにおいて、それぞれの施設の特徴や特性を生かし、市民の多様なニーズに応える多彩なジャンルにわたっての事業展開を図ります。</p>					
これまでの取組	<p>第57回市民文化祭の実施(参加団体:19団体、延入場者数: 8,397人)</p> <p>文化施設による事業の実施(事業数:98事業、延入場者数: 66,108人)</p> <p>市民合同演奏会の実施(参加者数: 240人、入場者数:1274人)</p>					
評価結果 (平成17年度 実績評価)	1次評価	B	2次評価	B	3次評価	B
	<b>3次評価での指摘事項等及び意見</b> <b>( は行政評価検討委員会としての指摘事項・改善要望項目、 は各委員の意見)</b>					
	<p>施策の重要度が低い原因を分析し、重要度向上のために何をすべきか具体的に示すこと。 市民の文化芸術への理解を深めるためには、ソフト面の事業を充実させる必要があり、効果的な手法を検討し、事業の優先順位付けに活かすこと。</p> <p>市民ニーズに応じ、文化に触れる機会を増やすことが解決策に書かれているが、それを測れる指標を設定しておく必要があるのではないか。 掲げられている文化施設の稼働率だけでは、市民ニーズが測れないのではないか。本質的なニーズを測れるような指標設定が望まれる。 市民満足度調査の結果を指標に使い、重要度の向上を目標に掲げる方法もあると思うが、重要度を上げるために具体的な取組みを検討すべきではないか。 解決策にある平成19年度事業(市文化芸術発表・交流支援事業)は指標化できないのか。評価の具体的な根拠を明確に示すこと。 満足度を上げるために、満足度調査の不満の理由を分析する必要があるのではないか。 文化・芸術に対する市民意識が低いことが課題であるならば、箱物の充実ではなく、ソフト面の充実を図るべきではないか。例えば学校と連携を図り、子どもが文化・芸術に触れる機会の充実を図るなどが考えられると思うが。</p>					
3次評価の指摘事項を踏まえた課題整理	<p>文化芸術に対する市民意識を調査・分析し、市民ニーズの具体的な内容を把握することで、文化芸術に対し、自主的な活動機会の充実や鑑賞機会の提供など、市民がより多く関わられるような事業の展開を図る。</p>					

改善計画	改善目標及び改善時期	平成7年3月に策定された、本市の文化芸術の振興を図るための基本である「さがみはら文化振興プラン」を平成20年度末までに、現状の市民ニーズや本市の特性に考慮したプランへと改定し、多くの市民が文化芸術活動に参加できました、享受できるよう、事業展開を図ります。	
	具体的な改善方策	市民ニーズをよりの確に把握できるよう、施設の利用率・稼働率の指標とあわせ、市民意識を対象とした指標の選定を行う。	
	市民意識・ニーズの把握	実施の時期	平成20年度末までに
		市民参加事業における参加者の意識調査 鑑賞機会提供事業における市民ニーズ調査 など、プランの改定にあわせ市民意識を把握し、市民の満足度を測る指標を選定し、基準値・目標値を定める。	
	小中学生対象事業の充実	実施の時期	平成19年度末までに
親子参加によるワークショップを実施し、次代を担う小中学生などが文化芸術に触れる機会の充実を図る。			
改善結果	改善目標の達成状況		
	評価及び今後の取組方針等		